

矯正歯科治療に伴う一般的なリスクと副作用

矯正治療にも限界があります。できる限りの治療をおこないますが、望ましい治療結果が必ず得られるとは限りません。

また、リスクもありますので矯正治療を受けるに当たっては、下記の事項をよくご理解の上、受診してください。

1. 骨格性の不正咬合(特に反対咬合や開咬)は再発することがあります。このような場合は成長が終了するまでは経過を観察します。顎の手術が必要となる場合もあります。
2. 上下の歯の中心にずれがある場合や顎が歪んでいる場合に矯正治療のみでは改善が難しく顎の手術が必要となる場合もあります。
3. 最初は矯正装置による不快感や痛みを伴うことがあります。通常 1 週間程度で慣れますが個人差があります。痛みを感じやすい人は痛み止め等をお飲みください。
4. 歯の動きには個人差があります。そのため、治療期間が予定より長くなる場合があります。
5. 歯を動かすことにより歯根が吸収して短くなる場合があります。また歯ぐきがやせて下がる場合があります。
6. 治療中に金属等のアレルギー症状や、顎の関節で音が鳴る、顎が痛い、口が開けにくいなどの顎関節症状が生じることがあります。
7. ごくまれに歯が骨と癒着して動かないことや、歯を動かすことで神経が障害を受けることがあります。
8. 歯の形を修正したり、かみ合わせの調整をおこなうことがあります。
9. 歯に装着した装置を外すときに、エナメル質に微細な亀裂が入る可能性や、かぶせ物(補綴物)の一部が破損する可能性があります。
10. 保定装置(後戻り防止装置)を指示通り使用しないと、歯並びがまた悪くなる可能性があります。また親知らずが生えて、歯並びのズレが生じる可能性があります。
11. 加齢や歯周病等により歯を支えている骨がやせると、かみ合わせが変化します。
12. 矯正治療には、装置の使用など患者様の協力が大切です。指示通りに装置が使えない場合や通院のお約束が守られない場合は、治療結果や治療期間に影響します。
13. 毎食後、歯ブラシをしっかりとしてください。矯正治療中は虫歯のリスクが高くなります。歯ブラシがしっかりできない場合は治療を中断もしくは中止する場合があります。
14. 矯正装置が脱離して飲み込まないように注意が必要です。
15. その他予測ができないことがおきた場合には、当初の治療計画を変更する可能性があります。
16. 矯正治療は、一度始めると元の状態に戻すことは難しくなります。